新編正徹年譜（下）

稲田利徳

はじめに

これは、すでに公表した「新編正徹年譜（上）」（岡山大学教育学部研究集録、三十四号）の続編である。

（上）では、正徹の生誕から宝徳二年までを収めたので、ここでは、宝徳三年から、死没の長禄三年まで掲載し、一応、完結する。

（上）で示した「記述方法」を、便宜のために、再録しておく。

●記述方法

(1) 最初に、年号・西暦・正徹の年令を記す。

(2) 次に、上段に「月」、下段に「日」を、アラビア数字で記す。

(3) 説明のあとに、括弧で出所を示す。但し、「草根集」の場合は、巻の数字のみ記す。

(4) 諸本としては、書陵部十七冊本（略号―書）、内閣文庫十五冊本（内）、島原松平文庫本（島）、尊経閣文庫本（尊）の四部を使用する。

(5) 諸本間に主要な異同があったり、推定年時過程やその他に問題のあるときは、補注でさらに触れることとする。

(6) 正徹と特に関連する人物の死没や作品の成立など、参考のため、若干、書き加えたものがある。それは、黒丸を付して他と区別する。

宝徳三年（一四五一）、七十一歳

1・1　正月試筆に詠歌（巻九）。

1・5　正月に和歌一首を詠歌（東野州聞書）。

1・6　武田信賢家で詠歌（巻九）。

1・7　畠山道賢家で詠歌（巻九）。

1・16　或る人の所で探題歌を詠ず（巻九）。

1・17　細川勝元家で詠歌（巻九）。

1・18　渋川義鏡家で詠歌（巻九）。

1・21　山名教之家の月次会に出座（巻九）。

1・22　冷泉持為家で詠歌（巻九）。

1・24　一色教親家の月次会に出座（巻九）。

2・4　渋川義鏡、石橋祐義など、大光明寺で月次始せしに出座（巻九）。

2・10　細川勝元家で詠歌（巻九）。

2・17　三井寺仏地院長算坊の月次会に出座（巻九）。

2・18　細川氏久家の月次会に出座（巻九）。

2・19　小笠原浄元家の月次会に出座（巻九）。

2・20　畠山賢良家の月次会に出座（巻九）。

2・21　赤松教貞家の歌会に出座（巻九）。

2・22　細川道賢家の歌会に出座（巻九）。

2・23　清水寺辺十住心院の心恵律師の勧進の心孝の一回忌追善歌を詠ず（巻九）。（注48）

草庵で人々と詠歌（巻九）。

2・25　或人と東山の花見に行き、若王寺より清水寺辺まで見る。さらに、雙林寺辺の庵室で詠歌（巻九）。
2・26　山名教之家で詠歌（巻九）。
2・27　三井寺の北の別所で、人々と探題歌を詠ず（巻九）。
2・28　人々と石山の花見に行く。船中で探題歌を詠ず（巻九）。
2・29　三井寺の南の別所で花を見て詠歌。興済寺で披講す（巻九）。
3・2　仏地院長算坊の月次会に出座（巻九）。
3・4　細川勝元家の月次会に出座（巻九）。
3・8　恩徳院の廿日会を招月庵で行う（巻九）。
3・16　長谷寺に参籠のため南都に下向（巻九）。
3・17　霖雨のために奈良に逗留する（巻九）。
3・23　東大寺辺の庵室で人々と詠歌。夕方、成就院清賢の昔の宿で詠歌（巻九）。
3・24　南都仏地院で詠歌（巻九）。
3・27～4・2　長谷寺に七か日参籠し、法楽和歌五十首を詠ず（巻一・巻九）。
4・5　長谷寺より下向の途中、東大寺辺の庵室で詠歌（巻九）。
4・13　東大寺正法院で詠歌（巻九）。
4・14　或る小庵で、人々勧誘の泊瀬法楽歌を詠ず（巻九）。
4・17　興福寺別院菩提院内傳経院で探題歌を詠ず（巻九）。
4・19　成就院清賢の息栄如意丸の局で詠歌（巻九）。
4・20　春日社に参籠す（巻九）。
4・21～25　春日社宝前法楽百首を詠ず（巻一・巻九）。
4・22　成就院清賢の法楽歌を詠ず（巻九）。
5・1　成就院で詠歌（巻九）。
5・2　上洛の餞別に詠歌あり（巻九）。
5・3　帰洛する（巻九）。
5・7　渋川義鏡家で詠歌（巻九）。(注49)
5・15　畠山賢良家の聖廟法楽百首を詠ず（巻九）。
5・19　細川頼久家で探題歌を詠ず（巻九）。
5・20　草庵月次会に出座（巻九）。
5・26　或る人の興行せし会で詠歌（巻九）。
6・1　三井寺仏地院長算坊の月次会に出座（巻九）。
6・2　勝学坊で探題歌を詠ず（巻九）。
6・4　細川勝元家の月次会に出座（巻九）。
6・8　畠山賢良家の月次会に出座（巻九）。藤原利永より美濃国南宮法楽の百首題を所望される（巻九）。
6・11　大光明寺で詠歌（巻九）。
6・13　或る所で詠歌（巻九）。
6・15　全阿の勧誘せし春日法楽百首を詠ず（巻九）。
6・16　山名教之、常楽寺の月次沙汰せしに詠歌（巻九）。
6・17　細川氏久家の月次会に出座（巻九）。
6・20　草庵月次会に出座（巻九）。
6・23　一色教親家の月次会に出座（巻九）。
6・　「新薬和歌集」を書写す（天理図書館蔵本）。
7・1　南禅寺景南和尚の勧進の八景歌を奉る（巻九・松下集・書陵部蔵本など）。(注50)
7・5　小笠原浄元家で探題歌を詠ず（巻九）。
7・6　赤松教貞家の歌会に出座（巻九）。
7・7　一色教親家で七十首を詠ず（巻九）。畠山賢良家で七十首を詠ず（巻九）。
7・10　一条兼良より法楽の題を賜わりて詠歌（巻九）。
7・13　或る所で詠歌（巻九）。
7・16　細川勝元家の月次会に出座（巻九）。

7・17　細川氏久家の歌会に出座（巻九）。
7・19　大光明寺で詠歌（巻九）。
7・20　草庵月次会に出座（巻九）。
7・21　常楽寺の月次会に出座（巻九）。
7・23　畠山賢良家で詠歌（巻九）。(注51)
7・24　三井寺仏地院長算坊で詠歌（巻九）。
7・27　仏地院長算坊で詠歌（巻九）。
7・28　五智院僧都甚算坊で詠歌（巻九）。(注52)
7・29　草庵に帰る。歌の数寄を願いながら死亡せし人のために、日宝上人の書写せし法華経の包紙に詠歌（巻九）。
7・30　今宮に参詣の時、社務秀雅の坊で詠歌（巻九）。
8・4　細川勝元家の月次会に出座（巻九）。
8・5　畠山賢良家で詠歌（巻九）。
8・11　妙行寺日宝上人の坊で詠歌（巻九）。
8・14　小笠原浄元、明栄寺で五十首歌勧誘せしに詠ず（巻九）。
8・15　大光明寺の月次会に出座（巻九）。この夜、草庵に人々来りて詠歌（巻九）。
8・16　常楽寺の月次会に出座（巻九）。
8・18　七条の金光寺で詠歌（巻九）。
8・19　山名教之の勧進せし名号和歌を詠ず（巻九）。
8・20　草庵月次会に出座（巻九）。定家の正忌日なれば、彼の歌一首を一字ずつ句の上において詠歌（巻九）。
8・21　夜より持病起きる（巻九）。
9・6　畠山賢良の見舞を受け、和歌を詠ず（巻九）。
9・20　病床の中で、草庵月次会を行う（巻九）。
9・22　明栄寺の歌会に出座（巻九）。
9・23　一色教親家の月次会に出座（巻九）。(注53)
9・27　赤松教貞家で詠歌（巻九）。
10・初　忍誓法師、筑紫より帰洛し、その草庵で詠歌（巻九）。
10・13　人々と東山の紅葉を見て、建仁寺霊雲坊で詠歌（巻九）。
10・14　明栄寺の月次会に出座（巻九）。
10・17　細川氏久家の歌会に出座（巻九）。
10・18　細川道賢家の探題歌を詠ず（巻九）。
10・20　草庵月次会に出座（巻九）。
10・23　一色教親家の月次会に出座（巻九）。
10・24　畠山賢良家の月次会に出座（巻九）。
10・29　心敬の所望せし唐絵の軸物に賛歌を詠ず（巻九）。
11・5　畠山賢良家の月次会に出座（巻九）。
11・6　大光明寺の月次会に出座（巻九）。
11・9　眼阿の勧誘せし法楽歌を詠ず（巻九）。
11・10　細川勝元家の月次会の出座（巻九）。
11・16　常楽寺の月次会に出座（巻九）。
11・18　畠山賢良、仁和寺蔵勝庵に出られしついでに詠歌（巻九）。
11・20　草庵月次会に出座（巻九）。
11・24　明栄寺の月次会に出座（巻九）。
11・27　細川勝元家の月次会に出座（巻九）。
11・28　畠山賢良家で詠歌（巻九）。
11・30　一色教親死亡。その仏事に経の包紙に詠歌（巻九）。
12・4　渋川義鏡家で詠歌（巻九）。
12・5　畠山賢良家の月次会に出座（巻九）。
12・6　細川氏久家の月次会に出座（巻九）。
12・7　或る人勧誘せし、北野会所での法楽歌を詠ず（巻九）。
12・9　大光明寺の月次会に出座（巻九）。
12・12　常楽寺の月次会に出座（巻九）。

12・13　或る所で詠歌（巻九）。
12・14　明栄寺で詠歌（巻九）。
12・16　細川勝元家の月次会に出座（巻九）。
12・20　草庵の月次会に出座（巻九）。
12・26　畠山賢良家での歳暮会に出座（巻九）。
12・27　武田信賢家の庭に賀茂山の松を植えられし時に、飛鳥井祐雅の詠ぜし歌あり。それに和して一首奉る。さらに探題歌も詠ず（巻九）。
冬頃か　「和ゝ詞恋」という歌題を、ある歌会で提出す（東野州聞書）。

享徳元年（一四五二）、七十二歳

1・1　正月試筆に詠歌（巻十）。
1・5　武田信賢家で詠歌（巻十）。
1・6　畠山賢良家で詠歌（巻十）。
1・11　将軍家に参りて若君から詩歌を所望される（巻十・東野州聞書）三宝院了賢の歌会始めに出座（巻十）。
1・13　或る所で詠歌（巻十）。
1・14　小笠原浄元、明栄寺で月次会せられしに出座（巻十）。
1・17　渋川義鏡家で詠歌（巻十）。
1・18　武田信賢家の月次会に出座（巻十）。
1・20　草庵の月次会に出座（巻十）。
1・22　畠山賢良家の月次会の出座（巻十）。
1・24　細川勝元家の月次会に出座（巻十）。
1・27　渋川義鏡、大光明寺に月次会始められしに出座（巻十）。
2・1　●飛鳥井雅世没（63）。
2・5　三井寺へ参りて所々で詠歌（巻十）。
2・11　畠山賢良家の月次会に出座（巻十）。
2・14　明栄寺の月次会に出座（巻十）。
2・16　小笠原家の歌会に詠歌（東野州聞書）。
2・17　細川氏久家の月次会に出座（巻十）。
2・18　畠山賢良家の聖廟法楽百首に詠歌（巻十）。
2・20　細川勝元家の月次会に出座（巻十）。
2・21　草庵で人々と詠歌（巻十）。
2・22　草庵で月次会に出座（巻十）。
2・23　大光明寺の月次会に出座（巻十）。
2・26　三井寺五智院甚算草庵に来りし時鶴若丸の勧誘で詠歌（巻十）。
2・27　赤松教貞家で詠歌（巻十）。
2・29　宮道親忠の勧誘せし八幡法楽歌を詠ず（巻十）。
2・30　平頼資の勧誘で詠歌（巻十）。
3・3　冷泉持為の勧進せし法花廿八品歌を詠ず（巻六）。
3・4　細川勝元家の月次会に出座（巻十）。
3・5　畠山賢良家の月次会に出座（巻十）。
3・6　細川氏久家の月次会に出座（巻十）。
3・13　細川道賢家の庭の桜を見て詠歌（巻十）。
3・14　明栄寺の月次会に出座（巻十）。
中旬頃　正徹の提出した歌題で、常縁ら和歌を詠ず（東野州聞書）。
3・20　石橋祐義の山荘で昔日を思いて探題歌を詠ず（巻十）。
3・21　畠山賢良に誘われて大原野へ花見に行く。途中、栗生の観音寺に真保坊を尋ねる。雨中で詠歌（巻十）。
3・23　畠山賢良家で庭の花盛りを見て詠歌（巻十）。
3・24～25　小笠原浄元らと湯山にでかける。途中、あま、こそへ、あくた川、瀬河、なませ川、舟坂山で各々詠歌（巻十）。
3・晦　晦日とて詠歌（巻十）。
4・7　浄元・正広・正般ら四人と徒然につけて詠歌（巻十）。
この間　湯山鎮守へ法楽歌を奉納（巻十）。

4・16　人の勧誘で化城喩品を題で詠歌（巻六）。
4・17　湯山より帰洛（巻十）。
4・20　醍醐で詠歌（巻十）。
4・23　草庵で詠歌（巻十）。
5・12　日野勝光亭より勧誘せられし法楽歌を詠ず（巻十）。
5・15　畠山賢良家の月次会に出座（巻十）。
5・16　細川勝元家の月次会に出座（巻十）。
5・18　大光明寺の月次会に出座（巻十）。
5・19　畠山賢良家の歌会に出座（巻十）。
5・20　草庵の月次会に出座（巻十）。(注54)
5・21　山名教之家で詠歌（巻十）。
5・25　草庵で、千壽丸の勧誘せし北野法楽歌を詠ず（巻十）。
5・27　畠山賢良家で詠歌（巻十）。
6・4　細川勝元家の月次会に出座（巻十）。この時、林首夏なる歌題を提出す（東野州聞書）。
6・5　畠山賢良家の月次会に出座（巻十）。
6・7　草庵で人々と詠歌（巻十）。
6・8　赤松教貞家の月次会に出座（巻十）。
6・11　渋川義鏡家の歌会に出座（巻十）。
6・12　平等坊圓秀の月次会のために詠歌（巻十）。
6・13　来迎堂の盛阿寮で詠歌（巻十）。
6・16　武田信賢家で詠歌（巻十）。
6・17　細川氏久家で詠歌（巻十）。
6・18　或る所で詠歌（巻十）。
6・20　草庵の月次会に出座（巻十）。
6・23　草庵で人々と詠歌（巻十）。
7・5　畠山賢良家の月次会に出座（巻十）。
7・7　畠山賢良家の七十首歌を詠ず（巻十）。
7・17　渋川義鏡家で詠歌（巻十）。
この間　千本という所で歌よむ人々と詠歌（巻十）。
この間　畠山賢良、定家卿の影像賛を所望せしに詠歌（巻十）。
7・20　草庵の月次会に出座（巻十）。
7・23　武田信賢、故信栄十三回忌の仏事にいでし時に詠歌（巻十）。
7・25　大光明寺で詠歌（巻十）。(注55)
7・26　平等坊圓秀の月次会に出座（巻十）。
8・5　畠山賢良家の月次会に出座（巻十）。
8・6　仏地院長算宛に、「源氏物語」読進のために蔵本を閲覧させてほしい由の書状をだす（河野信一記念館蔵　正徹自筆書状）。(注56)
8・8　日野勝光亭で詠歌（巻十）。
8・18　渋川義鏡家で詠歌（巻十）。
8・20　草庵月次会に出座（巻十）。
8・21　赤松教貞家で探題歌を詠ず（巻十）。
この間　安居院大宮常光院で詠歌（巻十）。
8・26　平等坊圓秀の月次会に出座（巻十）。
閏8・10頃　先月十五日頃より将軍家で「源氏物語」の読進を行っていたが、この頃秋毎の持病おこって不参。その頃、治部大輔義健より定家の影像賛歌を所望される。また、まもなく、四季鳥の屏風に歌を詠ず（巻十）。
閏8・20　草庵の月次会に臥ながら詠歌（巻十）。
閏8・29　治部大輔義健より釈阿の影像賛歌を所望される（巻十）。
9・9　十二歳の時、伏見御所でみた大輪の菊と同じ種類のものを、その後、四十余年して或る人から手に入れて密かに栽培す。その菊を、渋川義鏡の所望で移植す（十巻）。

9・13　或る所から所望せし、三十首歌の巻頭を詠ず（巻十）。また
9・20　渋川義鏡家の廿首題に詠歌（巻十）。
9・24　草庵の月次会に出座（巻十）。
9・26　明栄寺の月次会に出座（巻十）。
　　人々と細川道賢家へ庭の紅葉見物にことよせて、去夏逝去の成賢の弔事に参りて詠歌（巻十）。
9・27　平等坊圓秀の月次会に出座（巻十）。
9・29　畠山賢良家で詠歌（巻十）。
9・30　渋川義鏡家の庭の庵室で詠歌（巻十）。
10・2　仏地院長算坊より北別所の紅葉を見物。その後、常在寺で人々と詠歌（巻十）。注(57)
10・3　仏地院長算坊で探題歌を詠ず（巻十）。
10・4　北別所北院如法経堂で探題歌を詠ず（巻十）。或人の勧進で勧發品を題で詠歌（巻六）。
10・6　畠山賢良と仁和寺蔵勝庵で詠歌（巻十）。
10・13　明栄寺の月次会に出座（巻十）。
10・17　或る人の所の月次会に出座（巻十）。
10・19　大光明寺の月次会に出座（巻十）。
10・20　草庵の月次会に出座（巻十）。
10・22　赤松教貞家で詠歌（巻十）。
10・23　畠山賢良家の月次会に出座（巻十）。
10・26　平等坊圓秀の月次会に出座（巻十）。
10・27　細川勝元家で詠歌（巻十）。
11・5　畠山賢良家の月次会に出座（巻十）。
11・20　草庵の月次会に出座（巻十）。
11・21　赤松教貞家で詠歌（巻十）。
11・22　或る所の月次会に出座（巻十）。
11・28　平等坊圓秀の月次会に出座（巻十）。
11・29　畠山賢良家で定家卿影供養で詠歌（巻十）。同時に定家の歌一首を冠において詠歌（巻十）。
11・30　明栄寺の月次会に出座（巻十）。
12・6　大宮常光院で人々と詠歌（巻十）。
12・(18)　畠山賢良家の月次会に出座（巻十）。注(58)
12・11　大光明寺の月次会に出座（巻十）。
12・15　平等坊圓秀の月次会に出座（巻十）。
12・18　細川勝元家で諏訪法楽百首ありしに詠歌（巻十）。注(59)
12・20　草庵の月次会に出座（巻十）。
12・22　武田信賢家の法楽百首歌を詠ず（巻十）。
12・23　畠山賢良家で詠歌（巻十）。
12・25　渋川義鏡家で詠歌（巻十）。
この年　自己の影像に歌を書き付ける（月草）。
享徳頃　細川勝元家の五十首探題歌で正広の歌をほめる（松下集）。

享徳二年（一四五三）、七十三歳

1・1　正月試筆に詠歌（巻十一）。
1・5　武田信賢家で詠歌（巻十一）。
1・6　畠山賢良家で詠歌（巻十一）。
1・11　三宝院准后良賢の歌会に出座（巻十一）。
1・13　或る人の家で詠歌（巻十一）。
1・14　小笠原浄元、明栄寺で月次沙汰せしに出座（巻十一）。
1・17　或る所の歌会に出座（巻十一）。
1・18　細川頼久家で詠歌（巻十一）。
1・19　渋川義鏡家で詠歌（巻十一）。
1・20　草庵の月次会に出座（巻十一）。
1・26　清水寺平等坊圓秀の月次会に出座（巻十一）。

1・27　畠山賢良家で詠歌（巻十一）。
2・2　飛鳥井雅世の一回忌に品経和歌を詠ず（釋教歌全集第三巻）。
畠山賢良の月次会に出座（巻十一）。
2・4　渋川義鏡家で詠歌（巻十一）。
2・6　細川道賢家で詠歌（巻十一）。
2・7　人々と正広寮で詠歌（巻十一）。
2・11　三井寺仏地院長算坊の月次会に出座（巻十一）。
2・16　祇園阿弥陀院で詠歌（巻十一）。
2・20　草庵の月次会に出座（巻十一）。
2・21　細川勝元家の月次会に出座（巻十一）。
2・22　梶井門跡准后了承参上の時、新門主了堯の所望で詠歌（巻十一）。
2・25　或る人の勧進の法楽歌を詠ず（巻十一）。
2・27　妙行寺日宝上人の坊で詠歌（巻十一）。
2・28　赤松教貞家の歌会に出座（巻十一）。
2・29　畠山賢良家の月次会に出座（巻十一）。
3・2　渋川義鏡、草庵で初めて詠歌（巻十一）。
3・6～9　日吉大宮に参籠し、法楽百首を詠ず（巻一・十一）。
3・10　坂本の杉生遍能坊で詠歌。さらに同坊の対鏡亭で一首詠ず（巻十一）。
3・11　「侍日吉社宝前詠百首和歌」を日吉大宮に奉納（早稲田大学本・彰考館本の同百首歌の奥附）。隆宗法印勧進の法楽歌を詠ず（巻十一）。
3・12　日吉大宮の参籠をおえる。さらに三十六首を奉納。社頭で礼拝講を見て詠歌（巻十一）。
3・20　草庵の月次会に出座（巻十一）。
3・22　或る所の月次会に出座（巻十一）。
3・26　仏地院長算坊の月次会に出座（巻十一）。
3・29　細川勝元家の月次会に出座（巻十一）。
3・30　小笠原浄元家で詠歌（巻十一）。
4・7　畠山賢良家の月次会に出座（巻十一）。
4・13　畠山賢良家の月次会に出座（巻十一）。
4・24　草庵の月次会に出座（巻十一）。
4・26　平等坊圓秀の月次会に出座（巻十一）。
この頃　関東より長尾実景が訪れる。若蒲の石で作った硯を送る（巻十一）。
4・27　或る所の月次会に出座（巻十一）。
4・28　大光明寺の月次会に出座（巻十一）。
5・11　三井寺照光坊で詠歌（巻十一）。
5・14　明栄寺で詠歌（巻十一）。
5・15　大光明寺の月次会に出座（巻十一）。
5・20　草庵の月次会に出座（巻十一）。
5・25　武田信賢家で詠歌（巻十一）。
5・26　平等坊圓秀の月次会に出座（巻十一）。
5・28　赤松教貞家の歌会に出座（巻十一）。
6・4　細川勝元家の月次会に出座（巻十一）。
6・13　或る所の月次会に出座（巻十一）。
6・14　明栄寺の月次会に出座（巻十一）。
6・15　鴨部之基の勧誘で詠歌（巻十一）。
6・18　武田信賢の勧進で、きたる二十四日の普光院の御仏事維摩十喩を詠ず（巻六）。
6・20　草庵の月次会に出座（巻十一）。
6・23　武田信賢家で詠歌（巻十一）。
6・27　渋川義鏡家の月次会に出座（巻十一）。

7・1　独吟歌を詠ず（巻十一）。
7・7　畠山賢良家で七十首歌を詠ず（巻十一）。
7・8　鴨部之基の勧誘で詠歌（巻十一）。
7・10　赤松教貞家で詠歌（巻十一）。
7・12　併和元為の勧誘の聖廟法楽歌を詠ず（巻十一）。
7・18　畠山賢良家の月次会に出座（巻十一）。
7・20　草庵の月次会に出座（巻十一）。
7・24　大津より舟で石山寺へ参る途中、探題歌を詠ず（巻十一）。
7・25　石山寺内で詠歌（巻十一）。
7・27　或る所の月次会に出座（巻十一）。
7・29　平等坊圓秀の月次会に出座（巻十一）。
8・2　小笠原教長家で詠歌（巻十一）。
8・3　杉原賢盛家で詠歌（巻十一）。
8・4　日下部宗頼の勧誘で詠歌（巻十一）。
8・5　畠山賢良家の月次会に出座（巻十一）。
8・6　人々草庵に来て詠歌（巻十一）。
8・9　武田信賢家の厳島法楽歌を詠ず（巻十一）。
8・13　大館教氏の勧誘せし百首を詠ず（巻十一）。
8・14　明栄寺の月次会に出座（巻十一）。
8・15　草庵に夜来りて詠歌（巻十一）。
8・16　山名教之家で詠歌（巻十一）。
8・17　大光明寺の月次会に出座（巻十一）。
8・18　赤松教貞家の歌会に出座（巻十一）。
8・19　明栄寺の月次会に出座（巻十一）。
8・20　草庵の月次会に出座（巻十一）。
8・23　仏地院長算坊で詠歌（巻十一）。
8・24　仏地院長算坊で詠歌（巻十一）。
8・25　持病おこりて外出せず（巻十一）。
9・5　俗弟龍霖逝去す。七日ばかり詠歌せず（巻十一）。
9・12　持病少しよくなり、臥ながら探題歌を詠ず（巻十一）。
9・13　渋川義鏡、草庵の月見に来りしに、探題歌を詠ず（巻十一）。
9・20　草庵の月次会に出座（巻十一）。
9・21　日野勝光亭より法楽歌の題を送られしに詠歌（巻十一）。
9・22　或所の月次会に出座（巻十一）。(注60)
9・23　渋川義鏡、草庵に立ちよられしに詠歌（巻十一）。
9・24　三首歌の衆議判陳上、勝負をつける（巻十一）。
9・29　渋川義鏡家の月次会に出座（巻十一）。
10・3　明栄寺の月次会に出座（巻十一）。
10・8　三宝院准后、山名宗全家に参る時、亭主祝着義一首を所望される（巻十一）。
10・12　大光明寺の月次会に出座（巻十一）。
10・15　草庵で詠歌（巻十一）。
10・20　草庵の月次会に出座（巻十一）。(注61)
10・22　番の歌で詠ず（巻十一）。
10・26　細川勝元家で詠歌（巻十一）。
11・1　将軍家での「源氏物語」読進はてて後に詠歌（月草・巻十一）。
11・7　細川勝元家での当座褒貶に出座（巻十一）。
11・11　大宮常光院の歌合に出座（巻十一）。
11・14　明栄寺の月次会に出座（巻十一）。
11・17　明栄寺での聖廟法楽百首歌を詠ず（巻十一）。
11・19　細川勝元家の八幡法楽百首歌を詠ず（巻十一）。
11・20　草庵の月次会に出座（巻十一）。
11・23　或る所の番の歌を詠ず（巻十一）。
11・25　平等坊圓秀の月次会に出座（巻十一）。

11・28　書番せし歌を詠ず（巻十一）。
12・2　忍誓法師の草庵で書番せし歌を詠ず（巻十一）。
12・3　畠山賢良家の聖廟法楽百首歌を詠ず（巻十一）。
12・6　大宮常光院の歌合に出座（巻十一）。
12・11　大光明寺の月次会に出座（巻十一）。
12・13　平頼資の勧誘で詠歌（巻十一）。
12・17　仏地院長算坊の月次会に出座（巻十一）。
12・20　草庵の月次会に出座（巻十一）。

享徳三年（一四五三）、七十四歳

1・1　正月試筆に詠歌（巻十一）。
この頃　持病重くなりて外出せず（巻十一）。
1・29　畠山賢良家より三十首題を所望され、うち二首詠じて遣す（巻十一）。
2上旬　持病回復せず（巻十一）。
2・20　草庵の月次会を沙汰する（巻十一）。
2・23　病気をおして畠山賢良家へ行きて詠歌（巻十一）。
2・25　渋川義鏡家の月次会に出座（巻十一）。(注62)
2・27　畠山賢良家の月次会に出座（巻十一）。
2・28　草庵の月次会に出座（巻十一）。
2・29　平等坊圓秀の月次会に出座（巻十一）。
3・4　渋川義鏡家で正徹病中立願とて聖廟法楽百首歌を詠ず（巻十一）。
3・5　畠山賢良家の月次会に出座（巻十一）。
3・9　平頼資の勧誘で詠歌（巻十一）。
3・16　畠山賢良家の月次会に出座（巻十一）。
3・21　仏地院長算坊の月次会に出座（巻十一）。
3・22　人々と舟で石山の花見に行き詠歌（巻十一）。
3・24　武田信賢家の聖廟法楽百首歌を詠ず（巻十一）。
3・25　人々と月次会に出座（巻十一）。
3・26　赤松教貞家の月次会に出座（巻十一）。
3・27　妙行寺で詠歌（巻十一）。
3・28　草庵の月次会に出座（巻十一）。
3・30　渋川義鏡家の月次会に出座（巻十一）。
4・1　隆宗坊で人々と探題歌を詠ず（巻十一）。
4・2　細川頼久家で詠歌（巻十一）。
4・10　渋川義鏡家の月次会に出座（巻十一）。
4・13　平頼資の勧誘で詠歌（巻十一）。
4・14　小笠原浄元興行の明栄寺の月次会に出座（巻十一）。
4・20　草庵の月次会に出座（巻十一）。
4・22　人々と歌合して詠歌（巻十一）。
4・27　或る人の所で探題歌を詠ず（巻十一）。
5・5　畠山賢良家の月次会に出座（巻十一）。
5・6　草庵に人々来りて詠歌（巻十一）。
5・14　明栄寺の月次会に出座（巻十一）。
5・20　草庵の月次会に出座（巻十一）。
5・26　平等坊圓秀の月次を勝負にせしに詠歌（巻十一）。
5・29　正広、正徹の違例立願の諸神法楽百首を沙汰せしに詠歌（巻十一）。
6・4　畠山賢良家の月次会に出座（巻十一）。
6・5　細川勝元家の月次会に出座（巻十一）。
6・13　関東の長尾実景より百首の點を所望される（巻十一）。
6・18　明栄寺の月次会に出座（巻十一）。
6・20　草庵の月次会に出座（巻十一）。
6・21　小笠原浄元家で詠歌（巻十一）。

6・22　或る所の歌合に出座（巻十一）。
6・26　平等坊圓秀の月次会に出座（巻十一）。
6・29　武田信賢家で詠歌（巻十一）。
7・3　畠山賢良家の月次会に出座（巻十一）。
7・7　畠山賢良家の七夕七十首歌を詠ず（巻十一）。
7・12　蜷川親度の所望で人丸の賛歌を詠ず（巻十一）。
7・18　畠山賢良の子息寵鶴丸の歌会始めに詠歌（巻十一）。
7・20　草庵の月次会に出座（巻十一）。
7・22　或る所の歌合に出座（巻十一）。
7・23　赤松教貞家で詠歌（巻十一）。
7・25　細川勝元家の月次会に出座（巻十一）。
7・26　或る所の歌合に出座（巻十一）。
7・28　富樫成春家に初めて行きて詠歌（巻十一）。
8・4　細川勝元勧進の常喜（持之）十三回忌追善歌を詠ず（釋教歌全集巻四・巻六）。
8・7　或る所の歌合に出座（巻十一）。
8・20　渋川義鏡家で詠歌（巻十一）。
8・28　草庵の月次会延引に出座（巻十一）。
9・6　或る所で詠歌（巻十一）。
9・10　或る所で詠歌（巻十一）。
9・16　暁より毎秋の持病おこる（巻十一）。
9・20　草庵の月次会、臥しながら沙汰（巻十一）。
この頃　八月頃から土一揆などありて世の中騒然とす。歌会も興行されず（巻十一）。
10・18　藤原利永の勧誘で詠歌（巻十一）。
10・20　草庵の月次会に出座（巻十一）。
10・25　或所より題を送られしに詠歌（巻十一）。
10・28　藤原利永、正広寮へ来りて勧誘せしに詠歌（巻十一）。
11・1　細川氏久家から送られし題を詠ず（巻十一）。
11・2　山名宗全のことで世の中騒然（巻十一）。
11・4　山名教豊・是豊、一路居士をして歌をよこす。（巻十一）。
この頃　宗砌、正広方へ和歌を送る。正徹返歌す（巻十一）。
11・18　夜、渋川義鏡、草庵に来りて詠歌（巻十一）。
11・20　草庵の月次会に出座（巻十一）。
11・26　平等坊圓秀の月次会に出座（巻十一）。[注63]
12・5　或る所で探題歌を詠ず（巻十一）。
12・10　或る所で詠歌（巻十一）。
12・20　草庵の月次会に出座（巻十一）。
12・22　或る所の歌会に出座（巻十一）。
12・27　渋川義鏡家で詠歌（巻十一）。

康正元年（一四五四）、七十五歳

1・1　正月試筆に詠歌（巻十二）。
1・5　武田信賢家で詠歌（巻十二）。[注64]
1・10　畠山賢良家で詠歌（巻十二）。
1・20　草庵の月次会に出座（巻十二）。
1・22　人々歌合せしに出座（巻十二）。
1・26　平等坊圓秀の月次会に出座（巻十二）。
1・28　細川頼久家で詠歌（巻十二）。
1・29　高松大神宮神主橘豊文の勧誘で詠歌（巻十二）。
2・7　仏地院長算坊で詠歌（巻十二）。
2・9　三井寺新羅社の御的に京より人々来りて詠歌（巻十二）。
2・11　仏地院長算坊の月次会に出座（巻十二）。
2・20　草庵の月次会に出座（巻十二）。同日或所の歌合に出座（巻十二）。[注65]

2・26　平等坊圓秀の月次会に出座（巻十二）。
3・2　小笠原浄元、明栄寺で歌会を興行せしに出座（巻十二）。
3・4　渋川義鏡の母の追善に行きて詠歌（巻十二）。
3・5　細川道賢家の庭の花盛りに行きて、人々と詠歌（巻十二）。
3・6　飛鳥井祐雅家で詠歌（巻十二）。
この頃　宝徳二年正月二日夜に夢想で得た歌が、享徳三年十二月二十八日の夜の夢で鴨部之基の示した法楽歌と全く一致した。この夢想歌を巻頭に法楽百首歌を詠ず（巻十二）。(注66)
3・15　人に誘われ東山の花見に行く。所々で詠歌し、南禅寺正的庵で披講（巻十二）。
3・18　或る所で詠歌（巻十二）。
3・19　畠山賢良家で庭の花盛りに探題歌を詠ず（巻十二）。
3・20　草庵の月次会に出座（巻十二）。
3・22　恩徳院の歌合に出座（巻十二）。
3・26　平等坊圓秀の月次会に出座（巻十二）。
4・3　草庵で人々と詠歌（巻十二）。
4・4　藤原久慶家で詠歌（巻十二）。
4・6　明栄寺の月次会に出座（巻十二）。
4・9　菅原之貞家で詠歌（巻十二）。
4・初旬　細川常折の勧誘の住吉法楽百首歌を詠ず（巻十一）。常折亭で披講ありし時、探題歌を詠ず（巻十二）。
4・20　草庵の月次会の出座（巻十二）。
4・23　恩徳院の歌合に出座（巻十二）。
4・24　忍誓法師の関東下向の餞別に参りて人々と探題歌を詠ず（巻十二）。(注67)
4・27　正般蔵主名字になりし悦びとて人々草庵に来りて詠歌（巻十二）。
4・30　平等坊圓秀の月次会に出座（巻十二）。
閏4・3　忍誓法師、田舎に下向するとて師弟の状を所望さる（巻十二）。
閏4・8　草庵に人々来りて詠歌（巻十二）。
閏4・14　明栄寺の月次会に出座（巻十二）。
閏4・20　草庵の月次会に出座（巻十二）。
閏4・23　恩徳院の歌合に出座（巻十二）。
閏4・26　平等坊圓秀の歌合に出座（巻十二）。
5・8　畠山賢良家の月次会に出座（巻十二）。
5・13　藤原国豊、草庵に来りて勧誘せしに詠歌（巻十二）。
5・14　明栄寺の月次会に出座（巻十二）。
5・20　草庵の月次会に出座（巻十二）。
5・24　恩徳院の番の歌を詠ず（巻十二）。
5・25　石橋祐義家で詠歌（巻十二）。
5・26　平等坊圓秀の月次会に出座（巻十二）。
5・27　同座に衆議褒貶ありし（巻十二）。
6・2　伊勢守貞親の勧進せし故眞蓮の一回忌追善歌を詠ず（巻六）。
6・5　武田信賢家の聖廟法楽百首歌を詠ず（巻十二）。
6・7　草庵に人々来りて詠歌（巻十二）。
この間　鴨部之基の勧誘せし祇園法楽歌を詠ず（巻十二）。畠山賢良、清水坂神護寺へ出でられしついでに詠歌（巻十二）。
6・11　細川氏久家で詠歌（巻十二）。
6・13　草庵に人々来りて詠歌（巻十二）。
6・20　草庵の月次会に出座（巻十二）。
6・23　恩徳院の歌会に出座（巻十二）。
6・26　平等坊圓秀の月次会に出座（巻十二）。

6・27　同座で褒貶ありし（巻十二）。
細川道賢の勧誘せし崇徳院法楽歌を詠ず（巻十二）。
7・5　●堯孝没（65）
7・7　畠山賢良家で七十首を詠ず（巻十二）。
7・20　草庵の月次会に出座（巻十二）。
7・23　武田信賢、若州下向とありしに詠歌（巻十二）。
7・26　恩徳院の歌合に出座（巻十二）。
8・1　細川氏久家で詠歌（巻十二）。
8・7　渋川義鏡家の月次会に出座（巻十二）。
8・13　平等坊圓秀の月次会に出座（巻十二）。
8・14　明栄寺の歌会に出座（巻十二）。
8・15　明栄寺で人々と探題歌を詠ず（巻十二）。
8・20　草庵の月次会に出座（巻十二）。
8・22　この四年間続けた将軍家での「源氏物語」談義結願す（巻十二）。
8・23　恩徳院の歌合に出座（巻十二）。
8・25　或る所の歌会に出座（巻十二）。
8・26　畠山賢良家の月次会に出座（巻十二）。
8・28　人々草庵に来りて「源氏物語」談義の結願を祝いて詠歌（巻十二）。
9・1　冷泉政為の勧進せし持為の一回忌追善歌を詠ず（巻六）。
9・9　畠山賢良家の月次会に出座（巻十二）。
9・13　仁和寺蔵勝庵に畠山賢良同道せし時に詠歌（巻十二）。
9・20　草庵の月次会に出座（巻十二）。
9・22　有馬元家の所で探題歌を詠ず（巻十二）。
9・23　恩徳院の歌合に出座（巻十二）。
9・25　東山の紅葉を見物し、霊山行福寺という道場で探題歌を詠ず。行福寺は親の墓所であるが、正広が正徹のために建立せし石塔などを見る。また、寺の坊主の所望で詠歌（巻十二）。
9・28　細川氏久家で詠歌（巻十二）。
10・3　堯孝の死後、彼の百首題を毘沙門堂僧正公承、題を人々に分けて詠歌せしむ（巻十二）。
10・4　山名教豊の播州静謐上洛祝着の会で探題歌を詠ず（巻十二）。
10・5　畠山賢良家の月次会に出座（巻十二）。
10・12　或る所で詠歌（巻十二）。(注68)
10・14　草庵に人々来りて勧誘せしに詠歌（巻十二）。
10・15　飛鳥井雅親より伊勢八幡法楽歌とて題を送られしに詠歌（巻十二）。
10・17　藤原国豊、定家卿影像賛歌を所望せしに詠歌（巻十二）。同日、供養に詠歌（巻十二）。
10・20　草庵の月次会に出座（巻十二）。
10・23　恩徳院の歌合に出座（巻十二）。
10・25　当秋は持病おこらず。これ去六月の頃、祇園社に正広が祈請せし瑞想とて祇園社法楽百首歌を詠ず（巻十二）。
11・4　去八月、将軍家で「源氏物語」を談義せし悦びとて人々来りて詠歌（巻十二）。
11・5　畠山賢良家の月次会に出座（巻十二）。
11・8　或る所で詠歌（巻十二）。
11・15　日下部宗頼の勧誘せし住吉法楽百首歌を詠ず（巻十二）。(注69)
11・20　草庵の月次会に出座（巻十二）。
11・23　恩徳院の歌合に出座（巻十二）。
11・25　日野勝光の勧進せし父政光十三回忌品経和歌を詠ず（巻六・釋教歌全集巻四）。

11・26　平等坊圓秀の月次会に出座（巻十二）。
11・28　或る人の勧誘せし聖廟法楽歌を詠ず（巻十二）。
11・29　中原高忠家で詠歌（巻十二）。
12・2　或る所の歌会に出座（巻十二）。
12・13　恩徳院の歌合に出座（巻十二）。(注79)
12・16　平等坊圓秀の月次会に出座（巻十二）。
12・17　草庵に人々来りて詠歌（巻十二）。
12・20　草庵の月次会に出座（巻十二）。
12・24　藤原氏資の勧誘で詠歌（巻十二）。
12・25　細川氏久家で詠歌（巻十二）。
下旬　来春、七十六歳なることを思ひて詠歌（巻十二）。

康正二年（一四五五）、七十六歳

1・1　正月試筆に詠歌（巻十二）。
1・2　夕月を見て「源氏物語」宇治巻の「朔日比の夕月夜」の場面を思いて詠歌（巻十二）。
1・16　草庵に人々来りて詠歌（巻十二）。
1・17　渋川義鏡家の歌会に出座（巻十二）。
1・18　隆宗法印の勧誘で詠歌（巻十二）。
1・20　草庵の月次会に出座（巻十二）。
1・21　冷泉政為家の歌会に出座（巻十二）。
1・23　恩徳院の歌合に出座（巻十二）。
1・28　平等坊圓秀の月次会に出座（巻十二）。
1・29　或る所で詠歌（巻十二）。
2・3　経圓坊で詠歌（巻十二）。
2・7　草庵に人々来りて詠歌（巻十二）。
2・20　草庵の月次会に出座（巻十二）。
2・23　恩徳院の歌合に出座（巻十二）。
2・24　細川道賢家の庭の花盛りに人々と詠歌（巻十二）。
2・28　平等坊圓秀の月次会に出座（巻十二）。
2・29　草庵に人々来りて詠歌（巻十二）。
3・1　畠山賢良家の庭の花盛りに詠歌（巻十二）。
3・2　仁和寺、木寺殿の花見に行く（巻十二）。
3・3　東山若王寺へ花見にでかける。寺僧に短冊歌を所望される。さらに花頂山を見て、霊山行福寺で人々と詠歌（巻十二）。
3・4　桂厚喝食の勧誘で詠歌（巻十二）。
3・5　堯実法橋の勧誘せしに詠歌（巻十二）。
3・9　鴨部之基の興行で詠歌（巻十二）。
3・12　宮道親忠家で詠歌（巻十二）。
3・14　細川頼久家で詠歌（巻十二）。
3・15　妙行寺住持宝舜と畠山賢良参りて詠歌（巻十二）。
3・18　畠山賢良家で詠歌（巻十二）。
3・19　賀茂躑躅の盛りを人々に誘われて見物に行き、小庵で詠歌（巻十二）。
3・20　草庵の月次会に出座（巻十二）。
3・23　恩徳院の歌合に出座（巻十二）。
3・24　細川勝元家の月次会に出座（巻十二）。
3・26　平等坊圓秀の月次会に出座（巻十二）。
3・29　八幡先社務平等王院立清（正徹の祖父と兄弟）草庵に来りしに詠歌（巻十二）。
3・30　鴨部之基の勧誘せし法楽百首歌を詠ず（巻十二）。
この間　周防の大内教弘より西国下向の勧誘を受けるも老屈を理由に辞退、返事にそえて「続後撰集」を遣わす（巻十二）。
4・4　細川勝元家の歌会に出座（巻十二）。
4・5　畠山賢良家の月次会に出座（巻十二）。

4・7　細川道賢家より法楽歌の題を送られしに詠歌（巻十二）。
4・9　渋川義鏡家の聖廟法楽百首歌を詠ず（巻十二）。
4・18　藤原久慶の沙汰で詠歌（巻十二）。
4・20　草庵の月次会に出座（巻十二）。
4・23　恩徳院の歌合に出座（巻十二）。
4・24　平頼資の勧誘で詠歌（巻十二）。
5・4　細川勝元家の月次会に出座（巻十二）。
5・5　畠山賢良家の月次会に出座（巻十二）。
5・8　細川頼久家で詠歌（巻十二）。
5・13　平頼資の勧誘で詠歌（巻十二）。
5・20　草庵の月次会に出座（巻十二）。
5・23　恩徳院の歌合に出座（巻十二）。(注71)
5・26　平等坊圓秀の月次会に出座（巻十二）。(注72)
6・4　細川勝元家の月次会に出座（巻十二）。
6・13　平頼資の勧誘で詠歌（巻十二）。
6・20　草庵の月次会に出座（巻十二）。
6・23　恩徳院の歌合に出座（巻十二）。
7・4　細川勝元家の歌会に出座（巻十二）。
7・5　細川道賢家で詠歌（巻十二）。
7・7　畠山賢良家の七十首歌に詠歌（巻十二）。
7・20　草庵の月次会に出座（巻十二）。
7・26　細川氏久家で詠歌（巻十二）。
8・5　細川勝元家の月次会に出座（巻十二）。
8・7　恩徳院の歌合に出座（巻十二）。
8・10　山名之朝草庵に来たりしに詠歌（巻十二）。
8・15　畠山賢良家の月次会に出座（巻十二）。
8・24　平等坊圓秀の月次会に出座（巻十二）。
8・25　草庵で正広の興行せし祇園法楽百首歌を詠ず（巻十二）。
8・27　恩徳院の歌合に出座（巻十二）。
8・28　草庵の月次会に出座（巻十二）。八幡藤坊の八景障子に詠歌（巻十二）夕方、山名常勝の子息政清、草庵に来たりしに詠歌（巻十二）。(注73)
8・29　平頼資の勧誘で詠歌（巻十二）。
9・1　冷泉政為の勧進せし、故持為三回忌追善和歌を詠ず（巻六）。
9・2　持病おこる（巻十二）。
9・13　平頼資の所望で三十首題の巻頭を臥しながら詠歌（巻十二）。
9・20　草庵の月次会で臥しながら詠歌（巻十二）。
9・23　備中国小田の草庵領、当御代の安堵の御判を受け、人々に佳せられし時詠歌（巻十二）。
10・5　畠山賢良家の月次会で懐紙を出す（巻十二）。
10・14　小笠原浄元家の月次再興の時、臥しながら懐紙を出す（巻十二）。
10・20　草庵の月次会に臥しながら詠歌（巻十二）。
10・23　院主の違例で恩徳院の歌合、草庵で沙汰して詠歌（巻十二）。
この間　或人の月次会に病気をおしてでかける（巻十二）。
11・2　人々の勧誘で法華経和歌を詠ず（巻六）。或る所で詠歌（巻十二）。(注74)
11・5　畠山賢良家の月次会に出座（巻十二）。
11・12　或る所で詠歌（巻十二）。
11・13　平頼資の勧誘で詠歌（巻十二）。
11・14　恩徳院の歌合に出座（巻十二）。
この間　大舘教氏の勧進せし兄治部少輔の七回忌に詠歌（巻十二）。
11・20　草庵の月次会に出座（巻十二）。
11・23　恩徳院の歌合を草庵で沙汰す（巻十二）。

11・26　平頼資の勧誘で詠歌（巻十二）。
12・4　細川勝元家の月次会に出座（巻十二）。
12・6　渋川義鏡、平頼資家で歌合を興行せしに詠歌（巻十二）。
12・8　正徹すでに八旬の齢に近きゆえに、出題を正広に申し付ける。譲与事に一首の懐紙ありて、この日に披講す（巻十二）。
12・12　渋川義鏡、草庵に来たりしに詠歌（巻十二）。
12・14　恩徳院の歌合に出座（巻十二）。
12・17　或る所で詠歌（巻十）。
12・20　草庵の月次会に出座（巻十二）。
12・22　或る所で詠歌（巻十二）。
12・23　草庵に人々来りて詠歌（巻十二）。
12・28　畠山賢良家の聖廟法楽百首歌を詠ず（巻十二）。

長禄元年（一四五六）、七十七歳

1・1　正月試筆に詠歌（巻十三）。
1・2　月を見て立春の歌を詠む（巻十三）。
1・12　渋川義鏡家の歌会に出座（巻十三）。
1・13　平頼資の勧誘せしに詠歌（巻十三）。
1・16　或る所で詠歌（巻十三）。
1・20　草庵の月次会に出座（巻十三）。
1・22　畠山賢良家で詠歌（巻十三）。
1・23　恩徳院の歌合に出座（巻十三）。
1・26　平等坊圓秀の月次会に出座（巻十三）。
1・27　菅原之貞の勧誘で詠歌（巻十三）。(注75)
1・28　日下部宗頼の勧誘せし法楽歌を詠ず（巻十三）。
この間　或る所の月次会に出座（巻十三）
2・10　高松大神宮神主橘豊文、神法楽に月次会を興行せしに詠歌（巻十三）。
2・12　細川勝元家の月次会に出座（巻十三）。
2・13　平頼資家の歌合に出座（巻十三）。(注76)
2・14　朝から持病おこる（巻十三）。
2・17 18　持病のため死に直面す（巻十三）。
3・中旬　三宝院准后了賢より九国の海苔を送られて、海苔十首の歌を詠ず（巻十三）。
3・下旬　畠山賢良家の庭の花を、病をおして見物に行く（巻十三）。
3・20　草庵の月次会に出座（巻十三）。
3・25　病気回復を祝って、人々草庵に来たりて詠歌（巻十三）。
この夜、近衛油小路より火災おこり草庵も類火にあう（巻十三）。
この間　三条西洞院辺の庵室にくらす。その頃、高松大神宮法楽会に出座（巻十三）。
4・8　妙行寺住持宝舜、畠山賢良を請待ありて詠歌（巻十三）。
4・9　恩徳院の歌合に出座（巻十三）。
4・11　壬生辺の藤を見て、人々と詠歌（巻十三）。
4・13　畠山賢良家の躑躅を見て人々と詠歌（巻十三）。
4・27　新造の草庵に移住す（巻十三）。(注77)
4・28　畠山賢良家の月次会に出座（巻十三）。
4・29　或る所で人々と詠歌（巻十三）。
5・4　細川勝元家の月次会に出座（巻十三）。
この間　或る所で人々と詠歌（巻十三）。
5・10　高松大神宮法楽歌会に出座（巻十三）。
5・14　恩徳院の歌合に出座（巻十三）。
5・18　紀元盛の八幡参籠法楽歌を詠ず（巻十三）。
5・20　草庵の月次会に出座（巻十三）。
5・22　或る所の歌会に出座（巻十三）。

5・23　恩徳院の歌合に出座（巻十三）。
5・24　畠山賢良家で詠歌（巻十三）。
5・26　清水の月次会に出座（巻十三）。
5・29　小笠原浄元、明栄寺で歌会を興行せしに出座（巻十三）。
6・3　畠山義忠家で瑞谿周鳳にあい「就問本朝数事」に関して語る（臥雲日件録）。
6・4　大光明寺の歌会に出座（巻十三）。
6・5　畠山賢良家の月次会に出座（巻十三）。
6・6　恩徳院の歌合に出座（巻十三）。
6・9　藤原久慶の勧誘せし歌会に出座（巻十三）。
6・10　高松大神宮法楽歌合に出座（巻十三）。
6・15　或る所で詠歌（巻十三）。
6・20　草庵の月次会に出座（巻十三）。
6・23　恩徳院の歌合に出座（巻十三）。
6・25　或る所で詠歌（巻十三）。
6・29　飛鳥井雅親卿より大神宮と石清水両宮の法楽歌の題を送られしに詠みて遣す（巻十三）。
7・7　将軍家の御不例の御祈禱のため、畠山賢良家で七十首歌を詠ず（巻十三）。或る人の法楽歌を詠ず（巻十三）。
7・8　日下部敏景の勧誘で詠歌（巻十三）。
7・10　高松大神宮法楽歌合に出座（巻十三）。
7・20　草庵の月次会に出座（巻十三）。
7・25　山名政清家の歌会に出座（巻十三）。
7・26　清水の月次会に出座（巻十三）。
8・1　或る所で詠歌（巻十三）。
8・15　草庵に人々来りて詠歌（巻十三）。
8・20　草庵の月次会に出座（巻十三）。
8・21　細川勝元家で詠歌（巻十三）。
8・23　恩徳院の歌合に出座（巻十三）。
8・25　日下部敏景の勧誘せし月次会に出座（巻十三）。
8・26　清水の月次会に出座（巻十三）。
8・27　山名政清家の月次会に出座（巻十三）。
8・29　源貞興の勧誘せしに詠歌（巻十三）。
8・30　鴨部之基の勧誘で詠歌（巻十三）。
8・　忍誓の「建保年中名所題百首和歌」に僻案点をほどこす（松平文庫・書陵部など）。(注78)
9・5　畠山賢良家の月次会に出座（巻十三）。
9・7　或る所で心敬らとの歌合に出座（巻十三・尊経閣文庫「武家歌合」）。(注79)
9・10　高松大神宮法楽歌合に出座（巻十三）。
この間　山名政清の所望で定家卿の影像賛歌を記す（巻十三）。
9・13　草庵の月次会、四月分火事によりてなかりしを沙汰す（巻十三）。
9・15　或る所で詠歌（巻十三）。
9・17　山名政清家の月次会に出座（巻十三）。
9・20　草庵の月次会に出座（巻十三）。
9・22　明栄寺で詠歌（巻十三）。
9・23　恩徳院の歌合に出座（巻十三）。
9・26　清水の月次会に出座（巻十三）。
9・28　日下部敏景の月次会に出座（巻十三）。
10・4　鷹司京極昔の関白殿の池の辺で人々と詠歌（巻十三）。
10・5　畠山賢良家の月次会に出座（巻十三）。
10・6　武田信賢家で詠歌（巻十三）。
10・8　日下部敏景の勧誘せし月次会に出座（巻十三）。

10・12　細川勝元家で詠歌（巻十三）。
10・15　細川氏久家で詠歌（巻十三）。
10・16　或る所の歌合に出座（巻十三）。
10・17　山名政清家の月次会に出座（巻十三）。
10・20　草庵の月次会に出座（巻十三）。
10・23　恩徳院の歌合に出座（巻十三）。
11・5　畠山賢良家の月次会に出座（巻十三）。
11・8　日下部敏景の月次会に出座（巻十三）。
11・15　或る所で詠歌（巻十三）。
11・17　山名政清の月次会に出座（巻十三）。
11・19　高松大神宮法楽歌合に出座（巻十三）。
11・20　草庵の月次会に出座（巻十三）。
11・23　恩徳院の歌合に出座（巻十三）。
11・24　細川勝元家で詠歌（巻十三）。
11・25　山名教豊と山名政清とが草庵に来りし時、詠歌（巻十三）。
11・26　「秘々抄」を重ねて書写す（久松潜一氏蔵本）。(注80)
12・2　藤原盛隆の追善品経和歌を詠ず（巻六）。
12・4　細川勝元家の歌合に出座（巻十三）。
12・5　畠山賢良家の月次会に出座（巻十三）。
12・8　日下部敏景興行の月次会に出座（巻十三）。
12・10　高松神前歌合に出座（巻十三）。
12・12　渋川義鏡、近日、鎌倉へ下向するとて草庵に来りしに詠歌（巻十三）。
12・13　恩徳院の歌合に詠歌（巻十三）。
12・14　正徹が二月に違例大事であった時、鴨部之基の住吉法楽百首を立願せしに詠歌（巻十三）。
12・15　草庵で人々と詠歌（巻十三）。
12・16　畠山賢良家の聖廟法楽百首歌を詠ず（巻十三）。
12・17　山名政清家の月次会に出座（巻十三）。
12・20　草庵の月次会に出座（巻十三）。
12・21　小笠原浄元家で詠歌（巻十三）。
12・22　渋川義鏡、東国發向に際し、道行歌を所望せしに詠ず（巻十三）。同時に平頼資へ餞別に和歌を遣す（巻十三）。
12・24　畠山賢良家で詠歌（巻十三）。
12・29　菅原之貞の勧誘で詠歌（巻十三）。

長禄二年（一四五七）、七十八歳

1・1　正月試筆に詠歌（巻十四）。
1・5　武田信賢家で詠歌（巻十四）。
1・6　畠山賢良家で詠歌（巻十四）。
1・8　日下部敏景の月次会に出座（巻十四）。
1・19　山名政清家の月次会に出座（巻十四）。
1・20　草庵の月次会に出座（巻十四）。
1・24　畠山賢良家の月次会に出座（巻十四）。
1・26　高松大神宮神前法楽の歌合に出座（巻十四）。
1・27　山名教豊家で詠歌（巻十四）。
閏1・8　日下部敏景の月次会に出座（巻十四）。
閏1・10　高松神法楽歌合に出座（巻十四）。
閏1・13　恩徳院の歌合を草庵にあるべしと人々申されしに沙汰す（巻十四）。
この間　平元明、寺よりの勧誘とて詩題を送られしに詠歌（巻十四）。
閏1・21　冷泉政為家の月次会に出座（巻十四）。
閏1・25　三井寺仏地院長算、重病にかかりし時に歌を送られし（巻十四）。
閏1・26　鴨部之基の興行で詠歌（巻十四）。

閏1・27　草庵月次会、小笠原浄元の逝去で延引せしを、この日行う（巻十四）。
閏1・28　畠山賢良家の月次会に出座（巻十四）。
2・3　武田信賢家で詠歌（巻十四）。
2・5　畠山賢良家の月次会に出座（巻十四）。
2・8　日下部敏景の月次会に出座（巻十四）。
2・11　草庵に人々来りて詠歌（巻十四）。
2・13　草庵で住吉法楽歌合を興行す（巻十四）。
2・15　日下部宗頼の興行で詠歌（巻十四）。
この間　武田信賢の所望で住吉の神體絵像に賛歌を記す（巻十四）。
2・16　細川道賢家で庭の花を見て詠歌（巻十四）。
2・19　浄教寺住持立誉の坊で詠歌（巻十四）。
2・20　草庵の月次会に出座（巻十四）。
2・23　藤原久元の勧誘で詠歌（巻十四）。細川氏久家の勧誘で詠歌（巻十四）。
2・24　飛鳥井雅親卿家で詠歌（巻十四）。
2・27　人々に誘われて、仁和寺の花見に行きて、白蓮舎で詠歌（巻十四）。
3・5　畠山賢良家の月次会に出座（巻十四）。
3・6　山名教豊家で詠歌（巻十四）。
3・9　武田信賢家で詠歌（巻十四）。
3・10　高松神前の歌合に出座（巻十四）。
3・13　草庵の住吉法楽歌合に出座（巻十四）。
3・17　山名政清家の月次会に出座（巻十四）。
3・20　草庵の月次会に出座（巻十四）。
3・23　或人の勧誘で詠歌（巻十四）。
3・26　細川勝元家の月次会に出座（巻十四）。
3・28　高松神前の歌合に出座（巻十四）。
3・29　畠山義統家で詠歌（巻十四）。（注81）
4・2　千壽丸の勧誘で北野法楽歌を詠ず（巻十四）。
4・3　細川氏久家で詠歌（巻十四）。
4・4　妙行寺に畠山賢良来りて詠歌（巻十四）。
4・5　細川勝元家の月次会に出座（巻十四）。
4・6　畠山賢良家の月次会に出座（巻十四）。
4・10　畠山賢良家の大神宮法楽百首を詠ず（巻十四）。
4・19　山名政清家の月次会に出座（巻十四）。
4・20　草庵の月次会に出座（巻十四）。
4・26　高松神前歌合に出座（巻十四）。
4・28　草庵の住吉法楽歌合に出座（巻十四）。
5・20　四月二十七日夜より持病おこりて外出せざりしが、この日、草庵の月次会を沙汰す（巻十四）。
5・20余　三宝院門跡の熊王丸の勧誘せし北野法楽歌を詠ず（巻十四）。
5・25　「伊勢物語」（智蘊筆本）の奥に識語を記す（千歳文庫本）。
この頃　美濃国の藤原利永、時鳥の文という栗木の葉を送られしに歌を贈答す（巻十四）。
6・2　藤原元貞の興行で詠歌（巻十四）。
6・10　高松神前の歌合に出座（巻十四）。
6・11　山名政清と和歌を贈答す（巻十四）。
6・13　五月分として延引せし草庵の住吉法楽歌合を沙汰す（巻十四）。
6・17　山名政清家の月次会に出座（巻十四）。
6・19　六月分の高松神前歌合を沙汰す（巻十四）。
6・20　草庵の月次会に出座（巻十四）。
6・22　平等坊圓秀坊の歌会に出座（巻十四）。
6・23　三井寺仏地院長元の所望で人丸影像賛歌を遣わす（巻十四）。

6・28　同日、草庵の住吉法楽歌合に出座（巻十四）。藤原利永から桑の木の脇差を送られ、和歌を贈答す（巻十四）。
7・1　武田信賢家で詠歌（巻十四）。
7・7　藤原元貞興行の月次会に出座（巻十四）。
7・8　畠山賢良家で七十首歌を詠ず（巻十四）。
7・10　草庵の住吉法楽歌合に出座（巻十四）。
7・11　高松神前の歌合に出座（巻十四）。
7・17　中原高忠の興行で詠歌（巻十四）。
7・20　山名政清家の月次会に出座（巻十四）。
8・6　草庵の月次会に出座（巻十四）。
8・8　長洞庵宗龍の草庵で詠歌（巻十四）。
8・10　武田信賢家で詠歌（巻十四）。
8・11　高松神前の歌合に出座（巻十四）。
8・13　草庵新造に移る。人々の勧誘で題を提出して詠歌（巻十四）。
8・15　草庵の住吉法楽歌合に出座（巻十四）。
8・17　細川道賢、草庵を訪れて詠歌（巻十四）。
8・19　山名政清家の月次会に出座（巻十四）。
8・20　頂法寺住侶専順興行の褒貶歌会に出座（巻十四）。(注82)
この頃　草庵の月次会に出座（巻十四）。同日、定家卿の追善に彼歌を一字ずつ句の上に置いて詠歌（巻十四・月草）。
9・10　山名政清、正徹の寿像をかかせて歌を所望す（巻十四）。
9・13　高松神前の歌合に出座（巻十四）。
9・15　人々、草庵に来りて詠歌（巻十四）。
9・16　桂厚の勧誘で詠歌（巻十四）。
9・20　草庵の住吉法楽歌合に出座（巻十四）。
10・10　草庵の月次会に出座（巻十四）。
10・15　高松神前の歌合に出座（巻十四）。
10・16　細川勝元の勧進せし、故岩栖院道観三十三回忌の追善供養で御経に歌を書き付ける（巻十四・月草）。(注83)
この頃　細川道賢の勧進せし、故岩栖院道観三十三回忌の品経歌を詠ず（巻六・釋教歌全集巻三）。
10・17　或る人の勧進で品経歌を詠ず（巻六）。
10・20　山名政清家の月次会に出座（巻十四）。
10・27　草庵の月次会に出座（巻十四）。
10・28　守信の興行せし褒貶歌を詠ず（巻十四）。
11・3　藤原元貞興行の月次会に出座（巻十四）。
11・4　武田信賢家で詠歌（巻十四）。
11・13　細川勝元家で詠歌（巻十四）。
11・18　草庵の住吉法楽歌合に出座（巻十四）。
11・20　細川賢秀の勧誘せし百首歌を詠ず（巻十四）。
11・26　草庵の月次会に出座（巻十四）。
11・28　高松神前の歌合に出座（巻十四）。
12・4　山名政清家の月次会に出座（巻十四）。
12・7　細川勝元家の月次会に出座（巻十四）。
12・13　藤原元貞興行の月次会に出座（巻十四）。
12・15　草庵の住吉法楽歌合に出座（巻十四）。
12・17　紀元盛の所望で八幡法楽歌の題と詠歌を遣わす（巻十四）。
飛鳥井雅親卿の勧誘で太神宮石清水法楽歌を詠ず（巻十四）。
同日、山名政清家の月次会に出座（巻十四）。
12・20　草庵の月次会に出座（巻十四）。
この年か　或る人の勧進で品経歌を詠ず（巻六）。(注84)
この年か　或る人の勧進で品経歌を詠ず（巻六）。(注85)
長禄三年（一四五八）、七十九歳
1・1　正月試筆に詠歌（巻十四・月草）。同日、藤原利永より由緒

1・2　ある小松と養老の瀧水を送られて和歌を贈答す（巻十四）。
1・5　山名政清と和歌を贈答す（巻十四）。
この頃　畠山賢良家より、「しろ炭」を送られる（巻十四）。
1・13　持病おこりて外出せず（巻十四）。
1・20　草庵の住吉法楽歌合に出座（巻十四）。
2・4　草庵の月次会に出座（巻十四）。
2・13　人々、草庵に来りて詠歌（巻十四）。
2・20　草庵の住吉法楽歌合に出座（巻十四）。
2・21　草庵の月次会に出座（巻十四）。
2・22　冷泉政為家の歌会に不例により不参。懐紙のみ遣す（巻十四）。
3・5　正広寮で人々来りて詠歌（巻十四）。
3・10　細川道賢家の花盛りに病気をおしてでかける（巻十四）。
3・13　雨の中を東山の花見に人々とでかけて詠歌（巻十四）。
3・15　草庵の住吉法楽歌合に出座（巻十四）。
3・18　専順の興行で褒貶歌を詠ず（巻十四）。
3・19　畠山賢良の閑居で普賢象や花盛りを見て詠歌（巻十四）。
3・20　細川氏久家で詠歌（巻十四）。同日、山名政清家の石清水法楽歌を詠ず（十四）。
3・22　草庵の月次会に出座（巻十四）。
3・23　武田信賢家で詠歌（巻十四）。
3・24　賀茂の蹴鞠を見る。その時、律院で百首探題歌を詠ず（巻十四）。
3・25　妙行寺で畠山賢良らと詠歌（巻十四）。
3・26　実相院准后了運の勧誘で北野法楽歌を詠ず（巻十四）。
この間　正般と正圓の所望で正徹の道号を書きて歌を詠ず（巻十四）。春の暮れゆくをみて独詠（巻十四）。
3・晦　山名政清家で詠歌（巻十四）。
4・2　細川勝元家で詠歌（巻十四）。
4・25　「源氏物語」（桐壺巻）を書写す（天理図書館本）。
この頃　山名政清の所望で、寿量品と阿弥陀経の表紙に歌を書きて遣わす（巻十四）。
5・9　七十九歳で死去す（巻十四・松下集・碧山日録ほか）。

注

(48)　「心恵」は、内本のみ「心敬」とあるが、前者による。また、丹鶴本は「法師」とあるが、書・内の各本の「律師」をとる。
(49)　「七日」の指示は、丹鶴本には欠けているが、書・内の各本にある。
(50)　書陵部本の翻刻・紹介は、拙稿「正徹・堯孝の和歌を含む『瀟湘八景歌』の一資料について」（和歌史研究会会報35・36会併号）で行った。
(51)　丹鶴本「廿二日」、書・内の各本「廿三日」。後者による。
(52)　丹鶴本「基算坊」、書・内の各本「甚算坊」。一応、後者による。
(53)　丹鶴本「右京大夫」、内本は「左京大夫」。後者による。
(54)　丹鶴本「読歌」、尊本「月次」。後者による。
(55)　丹鶴本「廿九日」内・島・尊の各本は「廿五日」。後者による。
(56)　この河野記念館の自筆書状は、かつて小川寿一氏が「歴史と国文学」に紹介されたものと同一であろう。
(57)　丹鶴本「北別当所の花」、内・島・尊の各本は「北別所の紅葉」。後者による。
(58)　この「十八日」には、諸本とも異同がないが、この次「十一日」、および「十八日」が再出するところからみても不審。疑問とする。
(59)　丹鶴本「説方」、内・尊・島の各本「諏訪」。後者による。
(60)　この詞書、丹鶴本に欠脱、書・内・島の各本で補う。
(61)　この詞書、丹鶴本に欠脱、書・内・島の各本で補う。
(62)　この詞書、丹鶴本欠脱、書・内・島の各本で補う。
(63)　この詞書、丹鶴本に欠脱、書・内・島の各本で補う。
(64)　丹鶴・書の各本は、「十一日」、内・島・尊の各本は「五日」。後者による。

らして、一応、この年と推定してみたが、まだ疑問はある。

（昭和四十七年十月三日受理）

(65) この詞書、丹鶴本に欠脱。書・内・島・尊の各本で補う。

(66) 丹鶴本「宝徳三年十二月」とあるも、書・内・島・尊の各本は「享徳三年十二月」。後者による。

(67) 丹鶴本「恩贍」、書・内・島・尊の各本「忍晋」。後者による。以下の「恩贍」も同じ。

(68) 丹鶴本「廿二日」、内・島・尊の各本は「十二日」。後者による。

(69) 丹鶴本「家頼」、書・内・島・尊の各本は「宗頼」。後者による。

(70) 丹鶴本は、これ以下、十六・十七・廿日を、十一月の条に続けているが、これは錯簡で、十二月のもの。訂正して逼入する。

(71) この詞書は、丹鶴本に欠脱。内・島・尊の各本で補う。

(72) この詞書は、丹鶴本に欠脱。内・島・尊の各本で補う。

(73) 丹鶴本は「常縁」、他本により「常勝」に改める。

(74) 丹鶴本「十一日」、書・内・島・尊の各本は「十一月二日」。後者による。

(75) 丹鶴本「元貞」、書・内・島・尊の各本は「之貞」。後者による。

(76) 丹鶴本「十二日」、書・内・島・尊の各本は「十三日」。後者による。

(77) 丹鶴本「廿一日」、書・内・島・尊の各本は「廿七日」。後者による。

(78) この資料は、現存する正徹の僻案点として唯一のもの。まだ、詳細な紹介はされていないので、いずれ報告したい。

(79) 尊経閣文庫「武家歌合」は、『中世歌合集と研究(下)』（未刊国文資料）に翻刻された。

(80) この本の紹介は、拙稿「正徹と了俊」（国文学攷54号）で行った。

(81) 丹鶴本「義流」、内・島・尊の各本は「義統」。後者による。

(82) 丹鶴本「順法寺」、書・内・島・尊の各本は「頂法寺」。後者による。

(83) 歌の注に、丹鶴本は「七十年のほとそひ侍し」とあるが、内・島・尊の各本は「七年」とある。また、翌日のものも、故道観の追善歌であるが、勧進者が相違する。

(84) (85) 巻六に、長禄二年の条に続いて「おなしく人のすゝめしに」、「人の勧進ありしに」と年月日を記さないで掲載してある。年代順配列か